

D-1

日本語を母語とする子どもの所有文の習得について

松藤薫子 (日本獣医生命科学大学) shigeko@nvl.u.ac.jp

1. はじめに

子どもの自然発話資料と発話の誘出調査の分析結果に基づき、日本語の所有文の習得過程の特徴を示す。その習得過程には (i) 所有の概念獲得、(ii) 「子どもは形と意味の結びつきにおいて、1対1の結びつきを好む」(Slobin 1973, 1985)という言語獲得原理、(iii) 習得過程の中間段階の文法の特徴が大人の文法の特徴に影響を与えるという普遍文法の動的な内部構成(Kajita 1977, 1997)が関与していることを議論する。

2. 日本語の所有文

(1) POSSESSION

- a. The possessor is a human being.
- b. The possessed is an inanimate entity, usually a concrete physical object of value.
- c. The possessor has the exclusive rights to make use of the possessed.
- d. The possessed is located in the proximity of the possessor.
- e. The possession relation is long term. (Taylor 1996:340, Heine 1997:38-9)

(2) 所有文

- a. 佐藤さんには夫がいます。
- b. 佐藤さんには才能があります。
- c. 佐藤さんは熱があります。
- d. 佐藤さんはきれいな目をしています。
- e. 佐藤さんは外車を持っています。☞
- f. 佐藤さんには高級外車があります。☞ (庵,他 2012:36-37)

(3) 所有文の自然さに関する調査 (松藤(forthcoming), 大学生 160 人のアンケート調査結果)

- a. 弟に財布がある。 (Stassen 2009: 302, Martin 1975:649)
- b. ジョンに帽子がある。 (Tsujioka 2002: 30)

(3') a. 人には NP がある < b. 人には NP がある + α (前文を発話する理由を述べる文) < c. 人は NP を持っている

- (3'') a. 佐藤さんには高級外車があります。
 - b. 佐藤さんには高級外車があり、友達からうらやましがられています。
 - b'. 佐藤さんにはオートバイがあり、伊藤さんには外車があります。
 - c. 佐藤さんは高級外車を持っています。

3. 自然発話資料から観察された子どもの所有文の特徴: 松藤 (2015)

CHILDES、CLAN プログラムの KWAL コマンド (MacWhinney 2000, 宮田 編 2004)

野地(1973-1977)に基づく S 児 (0;0-6;11) のデータと MiiPro コーパスの一部である N 児(1;2-5;0)のデータ(Nisisawa & Miyata 2009) ((;)は(歳;月)を表す)

(4)自然発話資料の分析結果から明らかになった点

A. 「ある」所有文

- a. 2 歳台から使われ始めた。
- b. 生物が具体的属性を備えていることだけでなく、人が身の回りのものを所有物とすることも表した。
- c. 所有物は単なる物の名前ばかりではなく、(大人の使用と似て) 少し目立つように修飾語のついた表

現であった。

d. 所有者につく格助詞は大人の使用と異なり、使われないことが多く、「には」は全く使われず、「は」が少し観察された。

e. 所有物につく「が」は3歳前後から観察された。

B. 「持っている」所有文：観察されなかった。同じ形式で異なる意味を表す携帯文のみが観察された。

(5) (4A.a, b) 「ある」所有文は2歳台から、所有物は具体的属性が使用当初から、その後具体的物体も

S児 a. 具体的属性：とおちゃん はは ある？‘とおちゃん 歯がある？’(2;1)、これ がが ある‘魚に骨がある’(2;1)、りんごは たね あるんじゃないね(2;8)

S児 b. 具体的物体：せいじちゃん ある‘せいじちゃんには麦わら帽子がある’(2;2)、ぼく おかね あるんよ(2;10)、おとおちゃん ぼく いい おようふくが あるんよ(3;0)、おばあちゃん おかねが たくさん あるの(4;0)

N児 a. 具体的属性：ふたつ あんよ あるの ‘ゴリラには二つ足があるの’(2;7)、おとおさん ここに まゆ まゆげと こういうのが あるね(3;11)、なんで だんごむしが あしが いっぱい あるの？(4;0)

N児 b. 具体的物体：なっちゃん これ と これ とー これとか これとか これと これとか これとかー ある(3;4)、こっちは もう ヌットラが あるんじゃない？‘私たちにはもうドラゴンヌットラがあるんじゃない？’(4;6)

(6) (4A.c) 所有物は大人の使用と似て少し目立つように修飾語のついた表現：「おかねがたくさん」「いいおようふく」「あかとしろのぼうし」「これとこれとこれとか」「おかね」「ヌットラ」

(7) (4A.d)所有者につく格助詞は使われないことが多い、「には」は全く使われず、「は」が少し

大人の言語知識では、「佐藤さん{には/に/は}高級外車がある」「車庫{には/に/*は}高級外車がある」

「ある」を含む所有文/存在文の格助詞の使われ方

(松藤 2015 : 38)

	所有文		存在文	
	S児	N児	S児	N児
該当する発話文数 (100%)	28(100%)	10(100%)	239(100%)	36(100%)
に	1(3.6%)	0(0%)	189(79%)	29(80.6%)
には	0(0%)	0(0%)	1(0.4%)	1(2.8%)
は	6(21.4%)	2(20%)	0(0%)	0(0%)
その他	2(7%)	3(30%)	11(4.6%)	3(8.3%)
格助詞がない	19(68%)	5(50%)	38(16%)	3(8.3%)

「ある」を含む文：所有文<存在文。存在文では「に」8割以上、「は」は全く使われていなかった。所有文では「に」は1例、「は」が8例、「には」は全く使われていない。

(8)存在文「に」：たくちゃん あめちゃん もっていたの どこに あるの(S児 2;4) あそこに ある(S児 2;4)ものさし、てっぽお 売ってるとこに こま あるんじゃないね ‘てっぽお:鉄砲’(S児 2;10)

(9)所有文「に」：おかあちゃん きかんしゃに えんとつが あるんじゃないね (S児 2;10)

(10)所有文「は」：たいたいは ががが あるからね ‘魚は骨があるからね’ (S児 2;8)

所有者を人間に限定すると「は」2例、「でも」1例が観察され、「に」は全くみられなかった。

(11) おとおちゃんは たくさん あるね ‘おとうさんはたくさんインクあるね’ (S児 2;8) おかあちゃん おんなでもねえ あかとしろの ぼおしが あるんよ(S児 5;0) こっちは は もう ヌツ

トラが あるんじゃない? ‘私たちにはもうドラゴンヌトラがあるんじゃない?’ (4;6)

(12) (4A.e) 所有物につく「が」は3歳前後から

ぼく おねつが ある (S児 2;9)

これ ちんが あるんです ‘N児 (仮想の自分ぼく) にはちんちんがあるんです’ (3;0)

(13)(4B.) 「持っている」文では携帯文はみられたが、所有文は全く観察されなかった。

S児 a. 目の前の携帯： おかね もってるんよ (2;1)、かちや もってる ‘かちや:傘’ (2;5)、
ぼく おてて もってるから ‘おてて:引き出しの取っ手’ (2;9)、おかあちゃん てるきち
ゃんが もってるような こんなチョコレート ちょうだい (4;0)

S児 b. 過去の携帯の出来事の思い出から： ね たかしちゃんも もってるんじゃないけん こおて
(3;9)、ありやあ ね かずほちゃんが もってる こんな まああるいのが いる ゆうて
ないたんよ (4;0)

N児 : きていちゃん なに もってんの? (2;4) ほら、これ もってんの (2;4)

(14) 不明な点

- a. 「ある」所有文で所有者につく助詞「には」はいつごろから使われるのか。
- b. 人が物を手に持っていたり、身に付けていないが (物の携帯・所持ではなく)、物を所有している場合、「持っている」文を発話することができるのか。

4. 子どもの所有文の誘出調査とその結果

所有文を引き出す調査、調査者1人が被験児1人の対話形式で約15分間

状況を説明する場面の最後に所有文が使われ、その所有文を被験児が日本語学習中のくまさんに教えてあげるといふ伝言ゲームのような方法

被験者は保育園児32人であったが、調査を最後まで行えた被験児は28人(6;1)~(2;8)

所有者と所有物が省略されて伝言されないように対比的な表現を使用

所有物は、所有者にとって大切な複数からなる(サイズ大)おもちゃ4種類、おもちゃセット4種類を使用、おもちゃは人形の手に持たせたり身に付けさせたりすることはせず、人形のそばに置いた

(15) 調査で使われた所有文 (調査文の内訳: 「ある」文4、「持っている」文4、フィルター文3)

1. 黄色君にはミニカーがあつて、茶色君には新幹線があります。
2. 青さんは宝石セットを持っていて、赤さんはお化粧品セットを持っています。
3. 赤さんにはごはんセットがあつて、青さんには食器セットがあります。
4. 茶色君はドラえもんを持っていて、黄色君はメダルを持っています。
5. 青さんはごはんセットを持っていて、赤さんは食器セットを持っています。
6. 黄色君にはドラえもんがあつて、茶色君にはメダルがあります。
7. 茶色君はミニカーを持っていて、黄色君は新幹線を持っています。
8. 赤さんには宝石セットがあつて、青さんにはお化粧品セットがあります。

(16) シナリオ

白くまさんは、今、〇〇さんが話す日本語を勉強中です。いろいろと教えてあげてくださいね。マーさん(調査者)がここにあるぬいぐるみについてお話します。

(練習1) 大きい象さんが小さい象さんを抱っこしています。

〇〇さん、大きい象さんが何をしているのか、白くまさんに教えてあげてね。(グアー グアー)

(練習2) コアラ親子とカンガルー親子がいます。〇〇さん、だれが抱っこしているのか、白くまさんに教えてあげてね。(グアー グアー)

1) マーさんがここにあるおもちゃについて説明するので聞いてね。黄色君はお誕生日にお父さんからミニカーをもらいました。黄色君はいつもいつもミニカーで遊んでいます。茶色くんはお誕生日にお父さんから新幹線をもらいました。茶色君はいつもいつも新幹線で遊んでいます。黄色君にはミニカーがあつて、茶色君には新幹線があります。いいねえ。では、〇〇さん、「黄色君には何があり、茶色君には何がある」のかを白くまさんに教えてあげてね。(グアー グアー)

2) マーさんがここにあるおもちゃについてお話するので聞いてね。青さんはお母さんから宝石セットを買ってもらいました。青さんはいつもいつも宝石セットから綺麗なものを選んで身につけています。赤さんはお母さんから化粧セットを買ってもらいました。赤さんはいつもいつもお化粧セットを使ってお化粧しています。青さんは宝石セットを持っていて、赤さんはお化粧セットを持っています。いいねえ。では、〇〇さん、「青さんは何を持っていて、赤さんは何を持っている」のかを白くまさんに教えてあげてね。(グアー グアー)

(17) a. 日本語勉強中の白くまさん



b. (16)の1) で被験児に提示した場面



c. (16)の2) 用の場面



(18) 誘出調査から明らかになった点

- 「ある」文に使われる所有者につく助詞「には」は5歳9ヶ月ごろに使うことができる。
- 人が物を手に持っていたり身につけていないが、物を所有している場面で「持っている」文を5歳1ヶ月ごろに発話することができる。
- 「ある」文と「持っている」文が両方使える場面では、「持っている」文のほうが4、5歳の子どもは使いやすい。
- 「所有者には所有物がある」が使われた文脈では、所有者につく格助詞は「には」より「は」や格助詞の省略のほうが、4、5歳の子どもは使いやすい。

(19) 被験児のグループ分け A: 6歳台2人 B: 5歳台10人 C: 4歳台8人 D: (2;8)~3歳台8人

(20) T 児(5;6) 黄色君にはミニカーがある 茶色君には新幹線がある/青さんは宝石セットを持ってる 赤さんはお化粧セットを持ってる/ 赤さんは食事セットがあつて青さんはお皿セットがある/茶色君はドラえもんを持ってて黄色君はメダルを持ってる/青さんは食事セットを持ってて赤さんはお皿セッ

トを持ってる/茶色君にはメダルがあつて黄色君にはドラえもんがある/茶色君はミニカーを持つてて黄色君は新幹線を持っている/赤さんには宝石セットがあつて青さんにはお化粧品セットがある

(21) 「ある」文が使われた状況説明後、被験児が使った動詞の割合

	持ってる	ある	動作動詞	状態動詞	なし
A 6歳台	0	81.25	12.50	0	6.25
B 5歳台	15	27.50	1.25	0	56.25
C 4歳台	26.56	29.68	0	0	43.75
D 2-3歳台	4.69	4.69	0	4.69	85.98

(22) 「持っている」文が使われた状況説明後、被験児が使った動詞の割合

	持ってる	ある	動作動詞	状態動詞	なし
A 6歳台	81.25	6.25	12.50	0	0
B 5歳台	41.25	0	5	0	53.75
C 4歳台	48.43	6.25	1.56	1.56	42.18
D 2-3歳台	15.62	0	0	3.13	81.25

(23) 「ある」文が使われた状況説明において、被験児が使った所有者につく格助詞の割合

	には	は	が	に	なし
A 6歳台	87.50	12.50	0	0	0
B 5歳台	15	38.75	13.75	0	32.50
C 4歳台	17.18	53.13	1.56	0	28.13
D 2-3歳台	4.69	9.38	0	0	85.93

(24) 「持っている」文が使われた状況説明での被験児が使った所有者につく格助詞の割合

	には	は	が	に	なし
A 6歳台	18.75	81.25	0	0	0
B 5歳台	0	58.75	13.75	0	27.50
C 4歳台	6.25	57.81	12.50	0	23.44
D 2-3歳台	3.13	10.94	0	0	85.94

5. 考察

(25) a. NP1 {に/には} NP2 がある... 存在 [場所に物がある]

b. NP1 は NP2 がある ... 非典型的所有関係 [生物とその属性の関係, NP1 と NP2 の関係性]

c. NP1 {は/には} NP2 がある...非典型的・典型的所有関係

「NP1にNP2がある」観察されなかった。

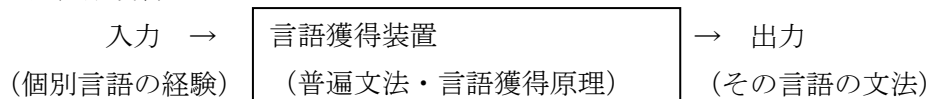
(26) a. NP1 {が/は} NP2 を持っている... 携帯 [人間が物を携帯している]

b. NP1 {が/は} NP2 を持っている... 典型的所有関係

●典型的な所有の概念はすぐに獲得されない。

●所有文は、言語事象の観点で有標である。(有標とみなす特徴 (八木 1984:238-239))

(27) 言語獲得モデル



(28) OP(MAPPING): UNIFUNCTIONALITY: if you discover that a linguistic form expresses

two closely related but distinguishable Notions, use available means in your language to distinctly mark the two Notions. (Slobin 1985:1228)

●(25a)から(25b)の過程は、「子どもは形と意味の結びつきにおいて、1対1の結びつきを好む」という原則(Slobin 1973, 1985)に基づく。

(29) If the grammar of a language L at stage i, $G(L, i)$, has property P, then the grammar of the language at the next stage, $G(L, i+1)$, may have property P'. (Kajita 2002:161)

(30) If, in $G(L, i)$, meaning M' is associated with form F' and meaning M, which is closely related to M' , is not associated with any form, then M may be associated with F' in $G(L, i+1)$. (Kajita 2002:166)

●習得過程のある段階の文法の特性に基づいて、次の段階の文法で所有文が可能となる。

{(25a)場所「に」の存在文+(25b)非典型的の所有の「は」文+典型的の所有の概念獲得} →(25c)

●存在文が先に、後になって所有文が習得される。場所と所有の意味が密接な関連性があっても、ある習得段階で場所の意味が導入される時、その現段階の文法の特性に基づいて形式が結びつく。その後の段階の所有文が可能となる文法の特性には基づかないため、存在文では「は」を使った文は生じないという説明が可能となる。

謝辞

本研究は平成 25-29 年度 JSPS 科研費基盤研究 (C)「叙述的所有表現とその獲得に関する研究」(課題番号 25370561 研究者代表 松藤薫子)の助成を受けた研究成果の一部である。

参考文献

Heine, B. (1997) *Possession*. Cambridge University Press.

Kajita, M. (1997) Some Foundational Postulates for the Dynamic Theories of Language. In Ukaji, M., T. Nakao, M. Kajita, and S. Chiba eds., *Studies in English Linguistics: A Festschrift for Akira Ota on the Occasion of His Eightieth Birthday*, Taishukan, 378-393.

Kajita, M. (2002) A Dynamic Approach to Linguistic Variations. In Kato, Y. ed., *Proceedings of the Sophia Symposium on Negation*, Sophia University, 161-168.

MacWhinney, B. (2000) *The CHILDES Project: Tools for Analyzing Talk* (3rd edition). Lawrence Erlbaum Associates.

松藤薫子(2012)「永続的所有を表す叙述表現に関する英語と日本語の比較: Stassen の類型論研究に基づいて」『日本獣医生命科学大学研究報告』61, 60-70. 松藤薫子(2014)「生成文法理論に基づく叙述的所有表現の一考察: 普遍的特性で規定されている部分と経験により獲得される部分」『日本獣医生命科学大学研究報告』62, 89-96. 松藤薫子(2015)「日本語の叙述的所有表現の獲得に関する予備的考察」『日本獣医生命科学大学研究報告』63, 34-43. 松藤薫子(2016)「英語の叙述的所有表現の獲得に関する予備的考察: 動詞 have 含む発話文の分析から」『日本獣医生命科学大学研究報告』64, 25-33.

松藤薫子(forthcoming)「日本語の所有文の自然さに関する一考察」『日本獣医生命科学大学研究報告』

Slobin, D.I.(1985) Crosslinguistic Evidence for the Language-Marking Capacity. In Slobin D.I. (ed.) *The Crosslinguistic Study of Language Acquisition Volume 2: Theoretical Issues*, Lawrence Erlbaum Associates, 1157-1256.

Stassen, L.(2009) *Predicative Possession*. Oxford University Press.

Taylor, J.R. (1996) *Possessive in English*. Oxford University Press.

Tsujioka, T. (2002) *The Syntax of Possession in Japanese*. Routledge.